



平成29年度 学校経営方針

大和市立中央林間小学校

校長 沼尻 港

学校教育目標

「未来を創る子どもたち」

～輝け、自ら学びを創り出す中林小の子どもたち～

教育の目的として、子どもの学力向上もさることながら、次世代の社会を担う良き市民を育成することが重要であると考えます。情報化社会が進展する今だからこそ、積極的に人や地域と係わり、社会をよりよいものにしていこうとする姿勢が求められており、「未来を創る子どもたち」には、そんな願いが込められています。また、サブテーマ「輝け、自ら学びを創り出す中林小の子どもたち」では、今、日本の子どもの課題とされている「学習意欲」や「自己肯定感」を大切にしながら教育活動を展開していきたいと考えています。

重点目標

「いつも『何のため』を考え、自ら行動しようとする子」

重点目標 学校教育目標、子どもたちの実態、教師の願いなどに基づき、本校のグランドデザインの柱＝重点目標を全職員による協議の中で策定しました。中林小の子どもたちに、「何のための学び？」、「なんで自分も周りも大切なの？」、「何のための約束？」、「何のための行事？」を常に考えさせながら、全ての教育活動を展開していこうと確認しました。さらに、このグランドデザインのもと、学年ごとに発達段階に応じた目標を定め、年間カリキュラムを立案・実施・評価してまいります。

学校経営方針

中林小 3つのS (スリーエス)

めざす学校・教師像

- S**a f e t y . . . 安全・安心な学校づくり
- S**e r v i c e . . . 丁寧で愛情あふれた教育活動
- S**h o w . . . 魅力ある授業や行事



めざす子ども像

- S**すすんで学ぶ . . . 確かな学力と学習意欲
- S**しなやかな心 . . . 思いやり、豊かな心、折れない心
- S**すこやかな体 . . . 健康でたくましい体



3. 経営方針の具現化へ向けて

(1) 本校がめざす教育の具現化へ向けた学年・学級経営の充実を図る。

- ・ グランドデザインを意識した教育活動の展開
- ・ 重点目標「何のため」を、調和のとれた教育課程の編成
- ・ 学年経営方針の明確化と年間をとおしての一貫した指導体制の推進（カリキュラム・マネジメント、学年代表会議の設置）
- ・ すべての学習活動を通して、自己有用感が得られるような学習活動の工夫
- ・ 新3学期制の運用の研究と標準授業時数確保の遵守
- ・ 道德教育全体計画のおよび年間計画の見直しと指導の重点化（タイムリーな指導）

(2) わかる授業の推進と「確かな学力」、「言語活動」の充実

- ・ 習熟の時間やTT、少人数指導を充実させ、基礎・基本の徹底した指導を図る
- ・ 校内研究「カリキュラム・マネジメント」学年を中心とした研究を活性化させる
- ・ 本時のめあての明確化、「あたたかい反応」、単元を見通した指導計画立案等を常に意識した教育活動の充実
- ・ 学習と日常生活との関連を」常に意識させる活用力の育成
- ・ 学力向上が得られる電子黒板やICT機器等の積極的な活用を図る

(3) 教育のプロをめざし、職員は日常的に研修・研究に努める

- ・ 「中林小7スタンダード」の励行
- ・ 教師一人ひとりが課題意識を持ち、校内研究・個人研究を計画的に推進
- ・ 校内研究における授業実践の推進
- ・ 初任研、寺子屋C0による授業力向上支援の積極的活用
- ・ 夏季休業中のスキルアップ研修会の充実（積極的に講師に立候補を）
- ・ 積極的な校外研修参加（教育研究所の講座や夏季休業中の研修会など）
- ・ 教師が互いに連携し、互いを高め合っていく「同僚性」の構築（OJTの推進）
（職員室における情報交換、「ミニ見に授業研究会」、FLAT授業参観など）

(4) 支援教育といじめ・不登校対策の推進

- ・ 校内委員会や校内いじめ対策委員会による組織的な対応の推進
- ・ 教室環境の整備（教室の前面をすっきりとさせ、刺激を最小限に）
- ・ 徹底した日頃の観察とアンケート調査などによる早期発見・早期対応の推進
- ・ 「1日欠席したら必ず電話」、「3日続けて欠席したら家庭訪問」の原則で
- ・ コーディネーターを児童支援中核教員に位置づけ校内支援体制を整備
- ・ 青少年相談室や巡回相談チームなどとの連携を図る
- ・ 教育相談等の充実や子どもと向き合う時間の確保に努める
- ・ 学生ボランティアの活用と緊密な連携

(5) 学校図書館教育の推進

- ・ 図書部や学校図書館教育推進協議会による全校体制の推進と学校図書館司書を中心とした学校図書館教育の充実を図る
- ・ 各学年、年間30単位時間以上の読書活動の推進（週あたり朝読2回・昼読1回）
- ・ 「調べる学習」の推進や不読傾向の子ども対策を進め、学力の底上げを図る
- ・ 「読書チャレンジ（読書カードの統一）」、学校図書館ボランティア活用、読書感想文と「調べる学習」の必修化などのさまざまな取り組みを実施
- ・ 家庭との連携による「家読（うちどく）」の推進
- ・ 蔵書電算化による図書貸し出しの推進

(6) 子どもの安全・安心を保障する環境整備の充実

- ・ 緊急時における避難・誘導の徹底と防災教育の推進
- ・ 大地震発生時の対応について具体的な動きをマニュアル化しておく
(震度5以上発生時、東海地震注意情報発表時、校外行事実施時など)
- ・ 年3回実施する下校指導における映像を使った指導の推進
- ・ 交通事故や校内事故を未然に防ぐ「危険予知トレーニング」を推進する
- ・ 平常時から緊急時に備えるための安全点検の充実(危険個所の発見)
- ・ 不審者侵入時に対応できるようにするための不審者対応訓練の実施
- ・ PSメール活用による自然災害や重大事件発生時における速やかな情報発信
(PSメール登録率100%めざす) 行事での活用も工夫

(7) 豊かな教育環境づくり

- ・ 環境が人をつくる→教室の環境は担任と児童でつくる
(快適な教室空間・廊下・階段・流し・昇降口・掲示物・棚・児童用机・黒板・掃除用具等の整理・整頓)
- ・ 校内掲示板のさらなる活用(各学期の前半後半の刷新、学年や委員会の活用)
- ・ 校内放送の効果的な運用(朝の放送、昼の放送、下校放送での音楽の活用)
- ・ 花壇や教材園の計画的活用とその整備
- ・ 敷地内の樹木に注目させるための樹木名を記した銘板の設置
- ・ 学校飼育動物や校内の動植物とのふれあいによる情操教育の推進
- ・ 清掃活動の充実(犯罪機会論の視点に立った環境づくり)
- ・ 「あいさつ運動」「言葉遣い」など望ましい行動様式は、教師が見本となって
- ・ 2校時終了からの「こんにちは」の奨励、「ありがとう」感謝の気持ち忘れずに

(8) 保護者や地域の方々と協働・連携する中で教育活動の充実を図る。

- ・ 学びの場を地域に求める体験活動を重視すると共に、各教科や道徳・総合的学習の時間等の関連を図る学習活動の展開に努める
- ・ 個人面談を実施し、学習評価を丁寧に伝えていく(12月)
- ・ あらゆる機会を活用し、学校での子どもたちの様子を参観してもらい、家庭と協力体制を確立する。(授業参観の年間計画の作成)
- ・ 保護者・地域の方々には誠意を持って丁寧に、速やかに対応する。特に、事故の対応については、初期の適切な対応が早期解決につながる。
(連絡・報告・相談「ホウ・レン・ソウ」をしっかりと・・・)
- ・ 学校評議員や地域との連携の中で、地域における子どもたちの成長に目を向けるとともにより開かれた学校の実現に努める。
- ・ 学校評価における自己点検、自己評価(保護者アンケート)の工夫と教育活動保護者説明会の実施、および学校関係者評価の実施
- ・ 地区行事(夏祭りや子ども会行事)等への参加を通して、地域を深く知り、子どもたちの地域活動の様子を知ることによって児童理解や指導の一助とする。